

4 択クイズ作成の練習活動を用いたオンライン漢字授業の試み

濱田 美和

A Report on Online Kanji Classes Using Making Four-choice Quiz Activities

HAMADA Miwa

要 約

オンラインで行った上級レベルの日本語学習者を対象とした漢字の授業において、グループでの練習活動として取り入れた漢字の4択クイズ作成の実践を報告する。その日に学んだ漢字・漢字語を用いて適切な読みと漢字表記を4択で選ぶクイズをグループで作成するという活動を行ったところ、自分たちで教科書や辞書で調べながら円滑に練習を進められていた。学習者が作成したクイズの分析および学習者への聞き取り調査を通して、読みや字形が似ていたり複数の読みや特別な読みを有していたりするなど間違えやすい漢字を選び、選択肢を作成していることが窺われた。学習者が作成したクイズは完成度も高く、そのまま復習用小テストとしても利用できた。漢字クイズ作成は、学習者の様子の把握が難しいオンライン授業においても取り入れやすい練習活動であることを述べた。

【キーワード】 日本語学習者, 漢字, オンライン授業, 練習活動, 4 択クイズ

1 はじめに

新型コロナ感染拡大の影響を受け、2020年度よりオンラインで実施することになった上級レベルの日本語学習者を対象とした漢字の授業において、学習者が主体的に取り組む練習活動として、学習者自身でその日の導入漢字を用いた4択クイズ作成を行うという試みを2020年度と2021年度に行った。2020年度は学習者ひとりひとりに漢字を割り当て宿題として取り組ませた¹⁾。学期末にクイズ作成はどうだったか(時間がかかったか、難しくなかったか)、クイズ作成の際にどんな点に気がつけたかについて聞き取り調査を行った(表1)。

まず、クイズ作成はどうだったかという問いに対しては、「大変じゃなかった」、「短い時間でできた」といった回答で、困難を感じている様子の学習者はいなかった。次に、クイズ作成の際にどんな点に気がつけたかという問いに対する答えでは「似ている」、「間違いやすい」といった言葉が多く聞かれ(表1の下線部)、字形や読みが似ている漢字、読みについては長短音、清濁音、促音の有無、複数の読みがある漢字など、学習者が間違えやすい点に注目しつつ作成していることが窺われた。実際に学習者が作成したクイズの完成度も高く、前回学んだ内容の小テストとして授業で用いた。

この4択クイズ作成の練習活動は、カードやワークシートといった補助教材を必要としないため、オンライン授業において学習者が主体的に行う練習活動として取り入れやすい。2020年度の学習者への聞き取り調査からクイズ作成も短時間でできることがわかった。そこで、2021年度は学習者個人で行う練習活動ではなくグループで行う練習活動として、さらに宿題ではなく授業中に取り入れることにした。

本稿では、2021年度に実施した漢字の4択クイズ作成の練習活動の実践を報告する。そして、学習者が作成したクイズの特徴、クイズの受験結果、学習者が読みクイズに出題した漢字語をどのくらい覚えているかについての調査、学習者への聞き取り調査、これらの分析を通してクイズ作成の練習活動の成果と課題について検討する。

表1 学習者への聞き取り調査結果（2020年度前期，回答者8人）

クイズ作成はどうだったか	<ul style="list-style-type: none"> • 大変じゃなかった。 • 作るのは早くできた。 • あまり時間がかからなかった。5分，3分。 • 問題ない。 • 短い時間でできた。 • そんなに時間がかからなかった。 • 時間はぜんぜん大丈夫。 • 10分ぐらい。
作成の際にどんな点に気がつけたか	<ul style="list-style-type: none"> • 書き問題は，Webサイト，辞書.org。たとえば，その漢字に使われている1つの部分を見て，形や読み方が似ている漢字。読み問題は，その漢字の他の読み方を使うか，<u>似ている音</u>。長音と短音とか。 • 訓読みや音読みが2つ以上のものを。特別な読みがある，<u>似ている漢字</u>を優先して，<u>間違いやすい漢字</u>。 • 漢字の場合は，ざっと見て，漢字が<u>似ている点</u>。読みの場合は，濁るとか，「おどかす／おびやかす」のような3つの訓読みがあって<u>間違えやすそう</u>なもの。 • 読み問題は，「う」があるかどうか，「っ」があるかどうか，細かい点について注意しながら。書きは，小さな違いがある漢字を日本語入力するとき，いくつか出るのでそこから。 • 漢字の形が<u>似た</u>，<u>間違いやすい漢字</u>を選ぶこと。同じ漢字がにんべんとさんずいを並べて。読みも<u>間違いやすい</u>ところに注目したかな。「っ」が入っているとかな。尼寺と泥寺とか<u>似たの</u>を選ぶこと。 • <u>似ている漢字</u>とか<u>似ている読み方</u>とか。 • <u>似ている漢字</u>を入れた。書き方を覚えているか確認するため。 • 難しすぎない。簡単すぎない文や言葉を選びます。

2 授業の概要

大学で行う日本語プログラム上級クラスの漢字の授業で，2021年度前期に週1回90分の授業を全15回行った。授業はオンライン（テレビ会議システムZoom，学習管理システムMoodleを使用）で行い，定期試験のみ対面で実施した。

受講者は5人（日本語能力試験N3合格者4人，N2合格者1人）だった。人文社会系の学部非正規生3人，理工系の大学院生2人で，全員非漢字圏の学習者である。

教科書は『留学生のための漢字の教科書 上級1000 [改訂版]』（国書刊行会）を用いた。上級レベルに必要な漢字1000字を扱った教科書で，全32課あり，各課30～33字の漢字が導入されている。各課の構成は導入部，漢字の提示部，そして練習となっている。授業では教科書の1～24課を学習した。2021年度前期のシラバスを表2に示す。

表2 2021年度前期のシラバス

第1回	4月12日(月)	ガイダンス等
第2回	4月19日(月)	1課，2課
第3回	4月26日(月)	3課，4課
第4回	5月10日(月)	5課，6課
第5回	5月17日(月)	7課，8課
第6回	5月24日(月)	9課，10課
第7回	5月31日(月)	11課，12課
第8回	6月7日(月)	中間試験（1～12課）
第9回	6月14日(月)	13課，14課
第10回	6月21日(月)	15課，16課
第11回	6月28日(月)	17課，18課
第12回	7月5日(月)	19課，20課
第13回	7月12日(月)	21課，22課
第14回	7月26日(月)	23課，24課
第15回	8月2日(月)	期末試験（13～24課）

3 漢字クイズ作成の活動内容

毎回の授業の流れを表3に示す。導入・練習に時間を要した場合は、4択クイズ作成の時間を短くするなどして、毎回の授業で90分のうち10～15分ほどをクイズ作成の時間とした。学習者5人をZoomのブレイクアウトルーム(参加者を少人数のグループに分けてミーティングを行える機能)を用いて2つのグループに分けた。グループのメンバーは固定せず、前回と同じメンバーにならないように教師が振り分けた。

ブレイクアウトルーム移動前に、図1のスライドを提示(毎回同じ内容のスライドを使用)して練習内容の説明を行った。グループのメンバーと協力して、その日の授業で学習した漢字を用いた4択クイズを作るという内容である。グループごとに漢字で表記された語の読みを選ぶクイズ、平仮名で表記された語の漢字表記を選ぶクイズ、それぞれを1つの課につき3問ずつ作成するという内容である。

教科書では各課30～33字の漢字が導入されているが、クイズに用いる漢字が2つのグループで同じにならないように教師が各グループの分担を決めた。各グループの担当ページについて口頭で指示したあと、ブレイクアウトセッション中に学習者が確認しやすいように²⁾、Zoomのチャット機能も利用して学習者に伝えた。

1回の授業で2課学習するので、2課分計12問を作成したあと、グループの代表者がメール等で教師に提出する、そして、問題を作成し終えたグループからZoomミーティングを退出して授業終了とした。教師は2グループから提出された計24問のクイズを、Moodleの小テスト機能を用いてオンラインで受験できるようにし、次の授業で前回の復習用(成績評価に関係しない)小テストとして用いた。

4 学習者が作成したクイズ

4.1 学習者が作成したクイズ例

第3課を例に説明する。この課の導入漢字は30字で、教科書36ページに8字(履、桁、曆、扱、欄、緊、須、項)、37ページに7字(養、哲、倫、概、礎、削、附)、38ページに8字(稚、析、盤、創、系、棟、援、購)、39ページに7字(攻、聴、准、締、掲、簿、博)の漢字の読み、画数、部首、書き順、漢字の意味(英語、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語)、語彙の読みと訳語についての情報が示されている。他の課についても、その課の学習漢字の情報が1ページ当たり7～8字、全4ページにわたって掲載されている。そこで、毎回1つのグループには前半2ページの漢字の中から、もう1つのグループには後半2ページの漢字の中から選んでクイズを作成するよう指示した。

学習者が第3課の学習漢字を用いて作成したクイズを表4～5に示す。

表3 授業(90分)の流れ

約15分	<ul style="list-style-type: none"> • 前回学習した内容の小テストの実施およびフィードバック • 宿題 (①前回学習課の練習問題, ②その日学習する課の漢字を手書きしたあと撮影し画像を提出)のフィードバック
約30分	1つ目の課の導入および練習
約5分	1つ目の課の4択クイズ作成
約30分	2つ目の課の導入および練習
約10分	2つ目の課の4択クイズ作成

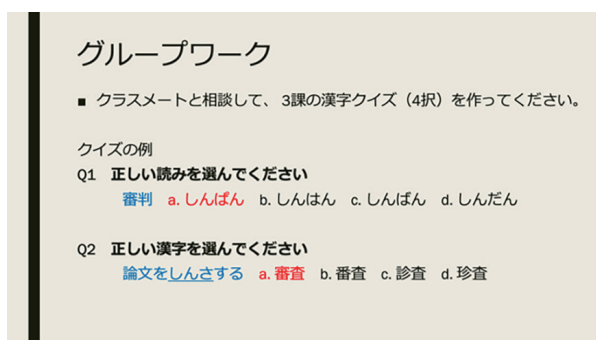


図1 説明時に用いたスライド

表4 適切な読みを選ぶ4択クイズ (第3課)

教科書	漢字	設問	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4
p.37	養	教養	きょうよう	きょうよ	きょうぎ	きょうつう
p.37	概	一概に	いちがいに	いちかいに	ひとがいに	ひとかいに
p.37	附	附属	ふぞく	ふそく	ふうぞく	ふうそく
p.38	創	創立	そうりつ	ぞうりつ	そりつ	ぞりつ
p.38	援	応援	おうえん	おうおん	ようえん	よえん
p.39	聴	聴覚	ちょうかく	ちよかく	しょうかく	しょかく

表5 適切な漢字表記を選ぶ4択クイズ (第3課)

教科書	漢字	設問	選択肢1	選択肢2	選択肢3	選択肢4
p.36	履	りれき書に写真を貼ってください	履歴	履曆	復歴	復曆
p.36	須	ひつす科目を入力する	必須	必項	心須	心項
p.37	倫	りんりを学ぶ	倫理	冊理	論理	理論
p.38	析	彼は自分のぶんせきが正しいと言っている	分析	分席	文析	文席
p.39	攻	敵にこうげきされた	攻撃	攻劇	工撃	江撃
p.39	締	しめきり日までに提出してください	締め切り	締め折り	閉め切り	占め切り

表4は適切な読みを選ぶ4択クイズ、表5は適切な漢字表記を選ぶ4択クイズである。いずれも選択肢1が答えで、選択肢2～4が学習者の考えた選択肢である。漢字表記を選ぶクイズについては短い例文で示すよう指示した。学習者が作成した例文は、辞書に掲載されているものをそのまま用いたと思われるものも多かったが、学習者自身で作文したものもあり、助詞やコロケーションなどの間違いがときどき見られた。その場合は、教師がMoodleの小テストに設問を転記する際に修正を加えた。

4.2 学習者が作成したクイズの特徴

授業では教科書の1～24課を学習した(表2)が、このうち1～22課の漢字について4択クイズ作成の練習活動を行った。各グループ1つの課につき、読みを選ぶクイズを3問、漢字表記を選ぶクイズを3問作成するという課題だったが、課によっては3問以上作成したグループもあった。全部で読みを選ぶクイズが144問、漢字表記を選ぶクイズ146問となった。それぞれの選択肢の特徴を見ていきたい。

まず、読みを選ぶクイズについて、学習者の作成した選択肢でもっとも多かったのは清音を濁音、濁音を清音、半濁音を清音あるいは濁音にするといった清濁の区別にかかわるものだった。144問中76問と半数(52.8%)以上のクイズで、清濁にかかわる選択肢が含まれていた。説明時のスライド(図1)に示した例の影響もあるかもしれない。2番目は複数の読みを持つ漢字に別の読みを当てたもの(43問, 29.9%), 3番目は長短の区別にかかわるもの(36問, 25.0%), 4番目は他の語(同じ送り仮名の語, 1音のみ違う語, 1字のみ違う語, 同じ意味のグループの語)の読みを当てたもの(25問, 17.4%), 5番目は似た字形の漢字の読みを当てたもの(24問, 16.7%), 6番目は促音にかかわるものだった(18問, 12.5%)。これらの選択肢の例を表6にまとめた。

他には、「し」と「ち」といった類似音を当てたもの(実施(じっち), 折衷(せっしゅう), 貴重(いちょう)など)、直音と拗音の区別にかかわるもの(敏感(びんきゃん), 忍者(にんざ), 埋葬(まいしょう)など)、撥音にかかわるもの(殉職(じゅうしょく), 扇風機(せぶうき), 余暇(よかん)など)などがあった。

表6 読みを選ぶ4択クイズ(全144問)で学習者の作成した選択肢の例

清濁	宛名(あでな), 運搬(うんはん・うんぱん), 幻覚(けんかく・けんがく), 狩猟(じゅりょう), 近頃(ちかごろ), 潜む(ひぞむ), 幻(まほろし), 矢印(やしるし)
他の読み	怠ける(おこたける), 貴重(きじゅう), 行儀(こうぎ), 献立(けんだて), 雑巾(ざっきん), 撤去(てっこ), 負傷(ふきず), 模型(ぼがた・ぼけい・もがた), 盆地(ぼんじ)
長短	圧縮(あしゅうく), 海藻(かいそ), 規模(きぼう), 寿命(じゅうみょう), 腫瘍(しゅよ・しゅうよ・しゅうよう) 盗塁(とるい), 舗装(ほうそう), 幽霊(ゆれい・ゆうれ)
他の語	及ぶ(あそぶ・さけぶ・こんぶ), 怠ける(かける・さける), 弾く(かく・きく・つく), 偽(あせ・みせ・くせ), 規範(もはん・いはん), 実施(じっせん), 雑巾(ずきん), 腎臓(かんぞう・しんぞう), 既婚者(りこんしゃ)
似た字形	怪獣(けいじゅう:「径」), 後悔(こうばい・ごうばい:「梅」), 撤去(さんきよ・さんこ:「散」), 垂直(じょうちよく:「乗」), 埋葬(りそう:「理」), 盗塁(じるい:「次」), 拝啓(ようけい:「洋」), 拉致(いせい:「位」と「政」), 累積(いせき:「異」)
促音	圧縮(あしゅく), 一致(いちち), 既婚者(きっこんしゃ), 公衆(こっしゅう), 豪華(ごっか), 疾病(しつぺい), 秘密(ひみつ), 別荘(べつそう), 立派(りつは・りつぱ)

次に、漢字表記を選ぶクイズについて、学習者の作成した選択肢でもっとも多かったのは似た字形の他の漢字を用いたものだった。146問中126問(86.3%)と8割以上のクイズで、似た字形を用いた選択肢が含まれていた。同じ部首の漢字(あとつぎ:跡継ぎ(路継ぎ・踏継ぎ・距継ぎ), しょうじょう:症状(疾状・疲状・病状), はたん:破綻(破経・砂綻・砂経), ねらい:狙い(狙い・狼い・狙い)など)をはじめとして同じ字形を含む漢字(うばう:奪う(奪う・参う・查う), がんぐ:玩具(元具・玩具・元具), しゅにく:朱肉(殊肉・未肉), けんえき:検疫(検没・剣疫・剣没)など)を用いたものが中心だったが、細かな形の違いのある漢字(しおひがり:潮干狩り(潮干狩り), はくし:博士(博士), みやざきけん:宮崎県(宜崎県)など)を取り上げたものもあった。

続いて多かったのは、同じ読みの漢字を用いたもので、146問中89問(61.0%)と6割のクイズに含まれていた。熟語の構成漢字それぞれに他の漢字を当てたもの(ぎせい:犠牲(犠牲・議牲・議性), しんこう:信仰(信行・真仰・真行), ぶんせき:分析(分庶・文析・文庶), めいふく:冥福(冥複・明福・明複)など)が多く見られたが、1字のみに他の漢字を当てたもの(がまん:我慢(我慢・我満・我万), ごうぜん:偶然(隅然・寓然・遇然), ぼくめつ:撲滅(僕滅・幟滅・稷滅)など)もあった。

このうち「ぎ:犠・議」, 「せい:牲・性」, 「まん:慢・漫」, 「ごう:偶・隅・寓・遇」, 「ぼく:撲・僕・幟・稷」は字形も類似しており、上述の似た字形の他の漢字を用いた例にも含まれる。学習者が作成した選択肢にはこれら形声文字を用いたものも多かった。高難度の漢字も含まれており、全員非漢字圏の学習者であることから、クイズ作成の際に同じ読みの漢字を辞書で調べたり日本語入力ソフトの漢字変換を利用したりして、その中から似た字形の漢字を選んだのではないと思われる。

同じ読みの漢字の中には同音異義語もあり、3つの選択肢のうちの1つのみ同音異義語というもの(しぼう:脂肪(志望・脂肺・指肪), はし:箸(橋・筆・者), はもの:刃物(葉物・刃物・忍者)など), 数は少ないが、選択肢すべて同音異義語のもの(あう:遭う(合う・会う・遇う), せいしよ:聖書(清書・誓書・正書))もあった。

同音の他に類似音の漢字を用いたもの(たいさく:対策(対索・対側・対則), とくしゅ:特殊(特朱・特集・特修), ふよう:扶養(扶洋・扶揺・扶搖)など)もあった。

以上のように、漢字表記を選ぶクイズについては、漢字の字形と読み注目して作成された選択肢が大半を占めた。この他には、数が少ないが、和語動詞の送り仮名に注目して作成したもの(おぼれた:溺れた(溺た・弱れた・弱た), ながめる:眺める(眺る・眺める・眺る)など), 構成漢字1字を含む別の語(きしゃ:汽車(空車・気車・機車), じゃま:邪魔(悪魔・郵魔・邸魔)など)があった。

5 クイズの受験結果

学習者が作成した4択クイズは、教師が内容を確認したうえで Moodle の小テスト機能を用いてオンラインで受験できるよう整えた。そして、翌週の授業開始時に前回の復習用として使用した³⁾。

4.1で例示した第3課の受験結果は、読みクイズは5人中4人が全問正解、1人が6問中1問不正解(応援:「ようえん」を選択)だった。漢字表記を選ぶクイズは5人中2人が全問正解、3人が1問不正解(りんり:「論理」を選択2人, りれき:「履曆」を選択1人)だった。他の課についても同様の結果で、5人全員の全クイズの平均正答率は90.3% (クイズの種別の平均正答率は読み選択クイズ91.0%, 漢字表記選択クイズ89.6%, 学習者ひとりひとりの平均正答率は82.0%, 86.5%, 87.6%, 87.8%, 97.7%)と非常に高かった。前の週に学習したばかりの内容であること、設問の半分は自分たちで作ったものであること、選択問題であることが正答率の高さに影響しているのではないかと推測される。

6 4択クイズを作成した語についての調査

上述のとおり、4択クイズ作成の翌週に行った小テストの平均正答率は非常に高かったが、前の週に自分たちで作成した4択クイズであることが関係していると思われるため、クイズ作成からしばらく期間をおいて、読みクイズ作成で取り上げた語を学習者がどのくらい覚えているかを調べることにした。

調査は2回に分け実施した。1回目は7月26日に13～20課の54語、2回目は8月2日に1～12課の72語を対象にした。内容は、漢字表記の語の読みを平仮名で書く読みテスト³⁾と、4択クイズ作成において自分(図2: □私)が選択肢を考えた語と、同じグループの学習者が考えた語(図2: □グループ)に印をつけるというものである。回答者は1回目4人、2回目5人である。

まず、読みテストの結果を見ていく(表7)。全体の読みの正答率は1～12課が30.6%(学習者Eを除いた4人の平均正答率は33.7%)、13～20課は47.2%で、13～20課のほうが高かった。学習者Dの正答率が1～12課と13～20課で大きく開きがあることが影響としていわれるが、学習者A～Cも1～12課よりも13～20課で正答率がやや高かった。13～20課は1～12課に比べて、クイズ作成から読みテストまでの時間経過が短いこと(1～12課は8～13週間経過、13～20課は2～7週間経過)が影響した可能性が考えられる。ただし、直近の19～20課を見た場合の全体の正答率は33.9%と高くはなく、時間経過の長さだけが影響しているとは言えないが、要因の1つだと思われる。

読みをひらがなで書いてください。

拳銃	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
偽の～	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
狩猟	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
刀	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
脱却	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
詳細	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
実施	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ
及ぶ	<input type="checkbox"/> 私 <input type="checkbox"/> グループ

図2 調査票(一部)

表7 読みテストの平均正答率

	学習者A	学習者B	学習者C	学習者D	学習者E	全体
1～12課	47.2%	40.3%	31.9%	15.3%	18.1%	30.6%
13～20課	51.9%	46.3%	35.2%	55.6%		47.2%

次に、学習者が自分たちで4択クイズを作成したと回答した語数を見ていく(表8)。1～12課は72語、13～20課は54語あり、毎回2グループに分けてクイズ作成を行ったため、自分たちでクイズを作成した語数は、大体1～12課で36語、13～20課は27語となる。表8の自分で作成した語数とグループで作成した語数の合計を基に学習者がクイズに出題した語をどのくらい覚えていたかを表9にまとめた。全体で見ると、1～12課が22.8%(学習者Eを除いた場合は25.7%)、13～20課が48.1%だった。8～13週間前の練習で扱った語を全体で2割近く、2～7週間前の練習で扱った語を5割近く覚えて

いたという結果から、クイズ作成の練習活動は他の練習活動との比較データはないが、漢字を覚えるのに役に立っているのではないかと考えられる。

上述の読みクイズの正答率と同様、1～12課よりも13～20課のほうが覚えていた語の割合が高かったが、これについてもクイズ作成からの時間経過の長さが影響しているのではないと思われる。

また、学習者によって、クイズで作成した語をどのくらい覚えているかに開きがあることがわかる。学習者 C, D, E は1～12課の語については1割前後であるが、学習者 A, B は4割前後を覚えていた。13～20課の語では、学習者 C, D も4割近く、学習者 A, B は6割前後を覚えていた。

さらに、学習者が自分たちでクイズを作成したと回答した語について、読みテストの平均正答率を調べた(表10)。表7で見た読みテスト全語の正答率と比べて、全体的に正答率が高くなっているが、学習者 B のみ1～12課について25.0%(全語の正答率43.0%)とかなり低くなっている。グループで作成した語を除いて学習者 B が自分で作成したと回答した語だけを見た場合も、正答率は22.2%と低かった。次節で学習者への聞き取り調査の結果を見るが、2020年度の学習者と同様、2021年度の学習者もクイズ作成の際には間違えやすいものを選んで作成したと回答している。クイズ作成で選んだ語が学習者自身にとって間違えやすい語であることが正答率の低さに影響している可能性も考えられる。その語でクイズを作成したことは覚えていても、読みは思い出せなかったのではないかと推測される。

表8 自分たちで4択クイズを作成したと回答した語数

		学習者 A	学習者 B	学習者 C	学習者 D	学習者 E	平均
1～12課	自分	2	9	1	3	1	3.2
	グループ	12	7	3	0	3	5
	計	14	16	4	3	4	8.2
13～20課	自分	6	9	7	6		7
	グループ	9	8	3	4		6
	計	15	17	10	10		13

表9 自分たちで4択クイズを作成した語をどのくらい覚えていたか

	学習者 A	学習者 B	学習者 C	学習者 D	学習者 E	全体
1～12課 (36語)	38.9%	44.4%	11.1%	8.3%	11.1%	22.8%
13～20課 (27語)	55.6%	63.0%	37.0%	37.0%		48.1%

表10 自分たちで4択クイズを作成したと回答した語の読みテストの平均正答率

	学習者 A	学習者 B	学習者 C	学習者 D	学習者 E	全体
1～12課	64.3%	25.0%	75.0%	100%	50.0%	51.2%
13～20課	80.0%	76.5%	50.0%	90.0%		75.0%

7 学習者への聞き取り調査

8月2日に行った4択クイズを作成した語についての調査後に、クイズ作成の際にどんな点に気がつきたか、クイズ作成が漢字を覚えるのに役立ったかどうかについて聞き取り調査を行った。

まずクイズ作成の際に気がつけた点については、2020年度の学習者と同様に、似ていて間違いやすい漢字を選んだという回答が多かった(表11の下線部)。また学習者 A, B は同音異義語についても言及していた(表11の破線部)。

次にクイズ作成が漢字を覚えるのに役立ったかについては、「少し覚えられるようになった」、「いくつか覚えていました」という回答や「クイズだけでは覚えられない」という回答もあるように、クイズ作成だけで覚えるのは難しいようである。しかし、クイズ作成のために教科書から間違いやすい漢字や語を選び出したり、辞書で調べたりする作業を通して、読み方や書き方に注意が必要な漢字を学習者自身で確認することは漢字や語彙力の向上に役に立つだろうと思われる。

表 11 学習者への聞き取り調査結果 (2021 年度前期, 回答者 5 人)

<p>作成の際に どんな点 気をつけたか</p>	<p>学習者 A: <u>似ている漢字, 偏が同じだけどちょっと似ている。同じ音読みがある漢字。読み方はもっと難しい。</u></p> <p>学習者 B: <u>間違いやすい漢字同士を選びました。読み方も書き方もちょっと似ていて間違いやすい。そして, 同じ読み方があるけど, 意味と使い方が違う漢字。</u></p> <p>学習者 C: 「しょ」と「ちょ」, 「しょ」と「しょう」。間違いやすい読み方。<u>似ている漢字。</u></p> <p>学習者 D: 「しゅ」と「じゅ」とか間違いやすいもの。<u>似ている漢字。</u></p> <p>学習者 E: 時間がないので, <u>すごく詳しく考える時間はなく</u>て。平仮名が出てる問題をやってるので, <u>漢字を選ぶ問題で形が似てるの</u>を選びました。4つの答え。読み方はその漢字を見たとき自分が読みたいと思った漢字を書いて, <u>正しいか確認して違ったら, みんなも正しくない読み方を正しく</u>するので。</p>
<p>漢字を 覚えるのに 役立ったか</p>	<p>学習者 A: <u>なんとなく。自分で作ったクイズ, たしかだれか作ったけど, だれかな</u>と思う。そんなに記憶力がない。クイズを作るのは漢字を覚える。役に立ちました。みんなで作ってテストを受けて役に立ちました。</p> <p>学習者 B: <u>いくつか覚えていました。印象はある漢字は覚えていました。ふつうこ</u>ういう音読みがあるけど, ある場合は特別な音読みがあるという場合はよく覚えています。</p> <p>学習者 C: <u>クイズを作って覚えられました。クイズは自分の短所を注意して作った</u>ので, テストのため役に立ちます。</p> <p>学習者 D: <u>クイズだけでは覚えられないけど, 授業のあと自分で復習してよく覚え</u>ました。</p> <p>学習者 E: <u>少し覚えられるようになったかな。今は自分が作ったクイズを覚えてい</u>ないとき, そのときは漢字の部分, 一部違ってる漢字, その漢字を何回も書かないと覚えられないかもしれない。</p>

8 結語

漢字の4択クイズ作成は、教科書や辞書で調べる能力が高い上級レベルの学習者の場合、比較的短時間で取り組み、教師のサポートなしで学習者だけで問題なく進められていた。学習者が作成した4択クイズおよび学習者への聞き取り調査を分析した結果、自身が間違いやすい点に着目しながらクイズを作成していること、実際に学習者が作成した選択肢もそれらを反映したものであることが窺えた。学習者の様子の把握が難しいオンライン授業でも取り入れやすい練習活動だと言える。

また、補助教材も必要としないため、オンライン授業においても実施しやすい。オンライン授業の場合、学習者も普段使い慣れた自身のPCを利用していることが多く、クイズ作成時に辞書や日本語入力ソフトを利用して同じ読みの漢字や類似字形の漢字を確認したり例文を探したりするのは、対面授業よりも行いやすい環境にあったと思われる。学習者同士は主にZoomのチャット機能でやり取り

しており、各自が作ったクイズの取りまとめもしやすかったようである。

2020年度は個人で、2021年度はグループでの練習活動として行った。グループでの活動といっても、クイズを考えるのは個人で、グループで行うのは学習者と設問が重ならないよう調整する程度であるが、短時間でも学習者だけでやり取りする場があったほうが学習者同士のつながりも深まるのではないかと考えられる。そして、グループ単位のほうが個人で行う場合よりも1課当たりの割り当て漢字数が増えるため、学習者がクイズ作成の過程においてより多くの漢字・漢字語に触れること、さらに同じグループの学習者の作ったクイズを見ることでも漢字・漢字語に触れる機会の増加につながることも期待される。

最後に今後の課題を述べる。まず、オンライン授業になってから、漢字を手で書く練習は主に宿題として行っているが、学習者からはオンライン授業になって授業中に漢字を書く機会が減ったために漢字を覚えるのが難しくなったという声や、対面授業のほうが漢字を書く機会が多くていいという声も聞かれる。手で書く練習をいかにオンライン授業の中に取り入れていくかが課題である。たとえばクイズの選択肢に手書きの漢字画像を入れるといった方法もあるかもしれない。

もう1つの課題は、学習者が提出したクイズをMoodleの小テストに転記する作業の効率化である。オンライン授業は対面授業と比べて、教材の準備や提出課題のフィードバックなど教師にかかる負担が大きい。学習者は作成したクイズをメール本文に書いたり、Word文書に書いて添付したりして提出しているが、これを毎回Moodleの小テストに転記する作業も時間を要するため、容易にWebクイズ化できる方法を検討したい。

さらに、漢字の4択クイズ作成は上級レベルの学習者は短時間でできたが、初、中級レベルの学習者の場合は難しいと思われる⁴⁾。初級、中級レベルの学習者を対象とした授業でも使えるような、学習者同士で行えるオンライン授業用の漢字の練習教材の開発も進めたいと考えている。

注

- 1) 受講者11人のオンライン授業で、『使う順と連想マップで学ぶ漢字&語彙 日本語能力試験N1』（国書刊行会）を主教材に用いた。1回の授業で各自割り当てられた4～5字の漢字の中から、適当な読みを選ぶ4択クイズ、適当な漢字表記を選ぶ4択クイズを各1問作成して提出させた。8人の学習者（非漢字圏学習者6人、中国人学習者2人、全員人文社会系の学部非正規生）から聞き取り調査への協力が得られた。
- 2) Zoomミーティングでブレイクアウトルームへ移動すると、学習者はメインルームの画面共有ができなくなり、教師が提示したスライドが見られなくなる。
- 3) 結果は成績評価には関係しないことを周知した。
- 4) 先行研究（加納2011など）においても、レベルが上がるにしたがい学習者自身の漢字の学習方法も変わってくることから、レベルに応じた教材作成の必要性が述べられている。

参考文献

- (1) 飯嶋美知子・山田京子・田中里実・吉田雅子・藤野安紀子（2012）『使う順と連想マップで学ぶ漢字&語彙 日本語能力試験N1』国書刊行会
- (2) 加納千恵子（2011）「第1章 作る前に」『日本語教育叢書「つくる」漢字教材を作る』スリーエーネットワーク、pp.1-35
- (3) 佐藤尚子・佐々木仁子（2018）『留学生のための漢字の教科書 上級1000 [改訂版]』国書刊行会